



# 黄河の森

## K F G

発行／特定非営利活動法人  
黄河の森緑化ネットワーク

代表理事／林 同 春  
編集責任者／一木 仁

〒650-0011  
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11  
神戸華僑会館内  
TEL・FAX:078-392-8328  
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp  
URL:http://www.k3.dion.ne.jp/~kougakfg  
I P:05031111874



### 日中友好林第2期現場視察



ああ あの大河 太古より 流れる誇り  
ああ その緑 永久に たやさぬ心  
燃えたつ生命 ここに ここに

#### CONTENTS

- P.2 三井物産環境基金PJ蘭州市訪問団
- P.3 四川大地震義援金贈呈
- P.3 移情閣コーラスの支援コンサート
- P.4 私と環境(10) 庭木の健康診断②
- P.4 絵本からのエコ・メッセージⅦ
- P.5 黄土高原の植物XI
- P.5 2009年植樹とクリーンキャンペーン日程
- P.5 「森の世話人」に認定
- P.6 事務局長就任を引き受けて

# 蘭州市民との協同植樹で協議 —ボランティア立ち上げも—

三井物産環境基金プロジェクトの一環として2008年9月、蘭州市訪問団を派遣し、現地ボランティアの立上げ支援に向けた、現地の方々（ボランティア、大学、企業）との共同植樹について協議をしました。同時にKFG会員から寄せられた四川大震災義援金を甘肅省南部の小学校に贈りました。

## 蘭州市人民政府を訪問

矢野事務局長就任の挨拶の後、義援金の送り先を協議しました。KFGの学校の復興用希望に対し、南北両山環境緑化工程指揮部の提案で、甘肅省南部(四川省境)の武都の小学校の復興に充てることになりました。近い将来、この学校を訪問し、私たちの緑化支援活動を伝え環境教育など新たな交流の場ができそうです。



訪問団と協議するGCBのメンバーら

## GCBと協議

GCB(グリーンカメル=緑駝鈴)は、蘭州を拠点とした環境保護ボランティア団体で、2004年設立。2007年のNGO会員(賛同者)は2千人で、今回の訪問ミッションの1つ「現地植樹ボランティア立上げ支援」の協同先として期待しています。前回(2007年)の訪問の後、先方から協同植樹の提案連絡があり、どう協働できるか、KFGの負担など、少々心配しながら具体化の可能性を掴むことがミッションでした。が、案ずるよりは…GCBは私たちのイメージする活動を始めて(2008年春)、ボランティアでの植樹を企画、苗、交通費(バス移動)すべて個人負担(30元/人)で若い親子連れなど50人が参加した由。これならKFGと一緒にやれそうではないか。植樹地は、GCBが探して村と直接交渉して確保。後の維持活動は村がする。行政は通さず今後も年2回程度続けたいとのこと。KFGの考え方を伝え、指揮部とも相談し

ながら、2009年秋のKFGとの共同植樹に向け相談をしていくことを確認しました。

GCB事務所は市内マンションの一角にあり、GCBのスタッフ3人と共に黒竜江省他のNGOリーダー3人が出迎えてくれました。シベリアタイガーの保護など環境保護活動、前日まで「太平洋環境問題の水資源特化テーマ」会議(日米含め26人参加)があつて残ってくれたとのことでした。皆な20代半ばの若手、中国各地で環境保護について、若い人を中心にボランティア活動が立ち上がりつつあるようでした。

GCBは四川震災に対して、募金(3万円)と共に復興に向け家屋の萱の利用技術開発や震災地の観光産業、崩れた山間の緑化などを企画、



蘭州大緑隊と話し合う訪問団

協力者を募り、フォード基金を得て活動を始めた由。

素朴で穏やかな語り口、どこにそんな企画力、エネルギーを秘めているのか。予定時間を過ぎて他省のメンバーはリュックで急いで帰っていききました。鉄道で30時間以上とか。頼もしい行動力。協働が楽しみです。この間、天野さんは、植樹技術(菌根菌の活用など)の試験場でした。

## 植樹基地で記念樹

第1期の植樹基地は、市政府の重要教育現場、緑化博覧園として鶴が羽を広げたようなシャレた展示館がドーンと建ち、ポコポコ道も舗装整備されていました。2期植樹地でベニスナを三水造林法で、指揮部のメンバーと一緒に記念植樹しました。

## 甘肅農業大学林学院を訪問

緑化に対する蘭州市民の意識調査を共同実施した甘肅農業大学林学院に李院長を訪問、実施状況を確認し、KFGとしての解析のためアンケート本紙を受取りました。配布数1200、

有効回収1089、農大生10数人が2、3人ずつのチームで配布・回収した由。KFGとしても現在、結果の解析を進めています。

## 蘭州大学緑隊と会合

蘭大は学生数4万4千人、中国最重点大学の1つ。緑隊は学内の環境保護を目的に1999年設立、現在は学外や大学裏山の緑化にも取組み、新入生を主に積極的参加は6百人。会合には、大学外事処の吳萬佩氏と3人の女子学生が参加してくれました。

緑隊の活動は、単位の取得など授業との関係はないが、大学としても重視しているとのこと。KFGからの来年(2009年9月)の共同植樹の提案に対して、協力したい、日本語系の学生の派遣を含め大学として検討するとの返事を頂きました。



蘭州豊田の陳社長(左から3人目)らと協議する訪問団

## 緑化先進企業訪問

現地のボランティア活動立上げ支援として、企業との連携の可能性を探るべく、指揮部に選んでもらった奔馬(ホウマ)集団公司汽車按揭公司と蘭州賽弛豊田汽車銷售务有限公司(陳社長・台湾出身)の2社を訪問(指揮部・鐘女史同行)、懇談しました。2社は、蘭州を中心に車の販売・修理やタクシーなどをとする事業3~5百人の企業。緑化、社会貢献への意識が高く、自社で積極的に緑化(200ha30万本:奔馬)を進め、付帯の配水管、道路整備など投資をしています。トップランナーを指揮部が選んでもらった面もあり税制上の優遇策もあるとのことですが、緑化の意識の高さに感心しました。一方、緑化は社員教育面から社員や、作業員を雇うなど、いずれも自社内(専門管理者常駐。春~秋に工員20人雇用:豊田)で進めているとのこと。

ボランティアの活用や連携の可能性については「ボランティア活動は

中国では未だ立ち上がっていないし、自分もよくわからない。わからない所に金は出せない。蘭州は水の問題があり専門力も必要で素人ではできない」「収入の少ない地域でありお金を出すことは難しい。植樹しても後の管理ができない。1、2日なら雇った方が良い」など消極的でした。

指揮部の鐘女史からも、①緑化は林野庁、蘭州では指揮部が押し進めており、企業からの資金援助は未だ無理だろう②蘭州で緑化を請負っている358企業・団体（全体の1割程度とか）の多くは国営で、私企業は業績の良いところが参加、厳しいところは義務植樹などで参加している企業もある③中国の植樹は3段階ある。④国の予算⑤企業、認養⑥民間で、④⑤はうまくいっているが⑥は長続きしない(金が続かない)。市内の緑化が10→60%まで来たが、これは官が主体故。企業は利益を出す必要がある一との補足説明を受けました。

さらに鐘女史や陳社長によると官企ボの三位一体ならうまくいくかも知れない。ボランティアは未だ認知が低い、KFGの仲立ちで三者(官、企業、KFG/ボランティア)が連携していけば、ボランティアも力を付けるだろうとのことでした。KFGとしても自分たちだけではやれないので、地元のボランティア活動を支援し、連携したい。

ボランティアに資金援助することは難しいとしながら、緑化への想い、KFG/指揮部の活動に理解を示し、協力的に話を伺うことができた。陳社長からはKFGの事務所が必要ななら提供しても良い、KFGの会員になりたいとのメッセージもありました。企業とボランティアの協力は、企業の資金援助に限らず、企業の緑化構想にボランティア(市民)の手を活用することもあるでしょうが、そこは分かってか話が続かなかった。ボランティアの認知、実感が未だ弱

いでしょう。その中で、三位一体の提案は確かに大きな足掛かりであり、実際KFGの取組みは、これを日中で実践してきたと言えるでしょう。今回の企業及び指揮部の方の指摘・提案を、私たちも再認識して、現地ボランティアの立上げ支援について、着実に前へ転がしていくことが大事だと思います。中国のボランティア活動についても、先の四川大震災などが契機となり、社会の認知も加速していくでしょう。

#### 古木、大樹を見学

指揮部・王処長の案内で市内の古木、大樹を見学しました。白雲観や文化宮で、これまで(第1期)植樹してきたコノテガシワや、槐樹(樹齢600年)の見事な高木、大樹を見ることができました。市南部の石佛溝森林公園は、正に生い茂った森林、北部と景色の違い雨量の多さを実感しました。

## 四川大地震義援金62万円を贈呈

甘粛省の小学校復興向け

2008年5月12日に起きた四川省大地震では、甘粛省南部も大きな被害を受け、中でも小中学校の倒壊など学校の大きな被害が報じられていた。

また、甘粛省に隣接する新疆ウイグル自治区でのテロなども発生し、外務省から渡航自粛要請が出されていた。このため我々KFGは、毎年9月に行っているワーキングツアーを取りやめ、代わりに被災地(甘粛省内)の学校に支援金を送ろうと言う事になり、会員その他から寄付を集め蘭州市を通して義援金を手渡すことになった。

皆さんの協力と努力の結果、KFG



甘粛省紅十字への義援金贈呈式

G派遣団の蘭州渡航前(9月中旬)には62万円が集まり、9月22日に甘粛省紅十字(赤十字)に贈呈した。義援金は紅十字を通じて、甘粛省南部の武都の小学校へ送られ復興に役立

たせて貰うことになった。尚、義援金を送った武都の小学校は、蘭州市南北両山緑化指揮部の王万鵬処長の友人が働いている学校と言う事で処長から是非にとの提案があり、KFGとしても異論なしで決定した。

義援金贈呈については、指揮部および赤十字は勿論のこと、蘭州市外事弁公室からも大変な敬意を払われ、蘭州市副秘書長が直接我々に謝意を述べていた。

今年9月のワーキングツアーでは、車で5時間程度かかると聞いているが、この武都の小学校を訪問し交流を深める予定をしている。

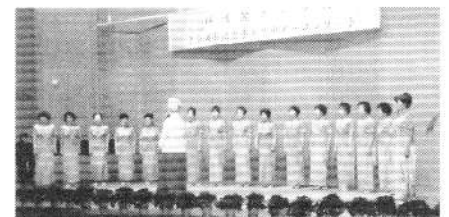
## 温暖化防止訴え演奏会 移情閣コーラス

移情閣友の会のコーラス部が設立20周年を記念して、シーサイドホテル舞子ピラ神戸のあじさいホールで「地球温暖化防止の植樹を！黄河の森緑化ネットワークの活動支援チャリティーコンサート」を開きました。

そして、当日の収益金の一部と来場者からの募金122,685円をKFGに寄付していただきました。誠にありがとうございました。

移情閣コーラスは(財)孫中山記念会に所属し、メンバーのほとんどが日本人主婦で結成され、張文乃先生の指導のもと中国の音楽を、慣れぬ中国語で大変努力され歌い続けて来られました。この日も、中国の美しいメロディーを中国語で美しいハーモニーで聞かせてくれました。

今後の益々のご活躍を期待しています。尚、本会会員で中国語でのコーラスに興味のある方は、次のところまでお問い合わせください。 移情閣友の会 TEL. 078-783-7172



美しいハーモニーを響かせる 移情閣友の会コーラス部

# 私と環境(10) 庭木の健康診断 ②

— 庭木の観察 花と葉 —

樹木環境研究会議「ミルフィーユの会」  
KFG顧問 天野孝之

医者が病気を治療し、健康を管理するためには人体の構造や仕組みを詳しく知っておかなくてはなりません。それと同じように庭木の健康管理のためにも、樹木の構造や働きを十分に知る必要があります。

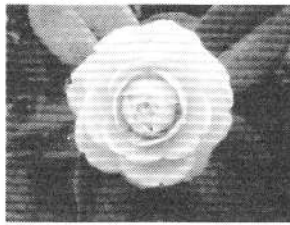
多くの庭木の花は、一つの花の中にながく片、花弁、雄しべ、雌しべからなり、これを両性花といいます。雄しべ、雌しべのどちらか一方しかない花を単性花といいます。また同じ株に雄花、雌花を咲かせる庭木を雌雄同株、株により雄花、雌花のどちらか一方しかつけないものを雌雄異株といいます。実を採取したり観賞したりする庭木は、植えるとき注意する必要があります。八重咲きの花は、雄しべが花弁化したものです。そのため結実しないものが多くあります。

庭木には花芽の形成される時期があり、それぞれの樹種によって異なっています。花が咲かない理由の一つに花芽が形成された後の整枝剪定、あるいは花芽の形成時に病虫害に遭い早期落葉などを起こし充実した花芽が形成されなかったなどが考えられます。また土壌中に肥料が多いと、栄養繁殖ばかり繰り返し、花芽が形成されないこともあります。

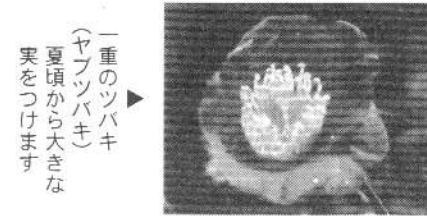
夏の終わりに毛虫やイモムシに葉が全部食害され、丸坊主になったサクラが、季節外れの秋に花が咲くことがあります。これは葉が食害され

ることによって落葉したと思ひ、秋の小春日和を春が来たと思違ひして開花したものです。

雄しべから花粉が飛んできてあるいは昆虫に運ばれて、雌しべで受精が行われると種子ができます。しかし、同じ株の雄花、雌花同志では受粉しない庭木が多くあります。ウメなどは異なる品種を植えることによって多くの実を得ることができます。



八重ツバキ  
(オトメツバキ)  
実はなりません



一重のツバキ  
(ヤブツバキ)  
夏頃から大きな実をつけます

ツバキ、トチノキなどの大きな種子からキイチゴのように小さな種子までいろいろあります。また羽根をつけた種子も多く、アカマツには1枚の大きな翼がついています。カエデ類は1枚の翼を持った種子が2個一緒になってプロペラのような形になっています。高いところから落とすとクルクルときれいに回転しながら落下します。遠くへ飛んでいくのに

都合がよいのでしょう。多くの庭木は、開花後受粉し、1年以内に結実し、種子採集ができます。しかし、アカマツやクロマツは春受粉後、翌年の秋に成熟し、それまで採種できません。即ち、種子が成熟するまで1年半かかります。

葉の形はいろいろあります。花とともに庭木の名前を調べる大きな特徴を持っています。カクレミノ、ヒイラギ、キツタ、ヒムロ、イブキなどは、1本の木に葉の形が二種類あるいはそれ以上あります。庭木の名前を、これらの葉や花の特徴とともに覚えていると、庭木の管理も楽しいものになってきます。

落葉広葉樹は秋に葉が散ります。しかしクスノキ、ツバキ、カシ類などの常緑広葉樹は、4月から6月にかけて新しい葉が出始めると2、3年生の古い葉が落ちます。クスノキやシラカシは今までつけていた葉を1週間ほどの間に落とし、完全に新旧交代します。しかし、ツバキやアラカシなどは2、3年生の古い葉が時間をかけて落ちていきます。日本に自生する針葉樹は、カラマツを除けば常緑樹ですが、これらは10月から12月にかけて落葉します。クロマツの場合、春新芽がでて、2年半後の秋に落葉します。アカマツは1年半後の秋に落葉します。季節外れの落葉は根系不良や病虫害を疑ってください。

## 絵本からの エコ・メッセージ VIII

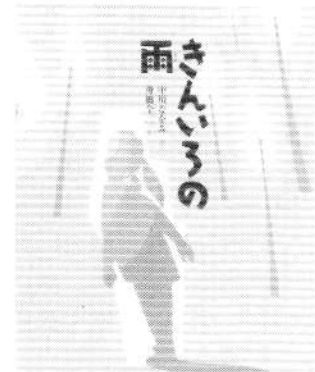
### 「きんいろの雨」

KFG会員 畑中弘子  
(児童文学者)

すずは、山に住むおじいちゃんのところへひとりで遊びにいきました。秋まっさかりの頃です。おじいちゃんの家は林のなかの一軒や。家のまわりには大きなカラマツの木がいっぱいわっています。夜になりました。「おやすみなさい。おじいちゃん」すずは、なにかの音で目をさまします。そして、真っくら闇のなかでいろいろな音をきくのです。

ビューーン シャラッ シャララッ シャラッ カサカサ ホッポー—どうしよう。どうしよう……。けもの？とり？たべられたらどうしよう。「おじいちゃん、こわいよー」すずの中で、不安や寂しさや怖さがふくれあがります。やがて……。

それをのりこえたときに、目の前に金色の世界があらわれました。あふれる大自然の恵みです。自然にふれた少女の、新鮮な驚きと喜びを描いています。作者の言葉、「自然を絵本で表現するのが私の長年の願い」どおりに、自然が実感できる絵本です。見事な切り絵、美しい色彩も、読者を楽しませてくれることでしょう。



中川なをみ・作  
船橋全二・絵  
くもん出版

## 黄土高原の植物 XI

例えばスギ1種類だけが植わっているのをスギの単純林という。別々の木が適当に混じっていると混交林という。単純林は管理や収穫が容易であるが、病虫害などが発生したとき伝播が速く大きな被害を受けやすい。混交林はその反対といわれる。収穫まで長い時間がかかる林業では混交林の方が安全であり、また多様な生物が生息できるなど自然林により近くなると考えられている。

このように1種類の木だけを大面積に植えるのは生態系が単純になり、諸害に対する抵抗力が落ちる。私たちの2期支援地はベニスナだけを100ヘクタールの面積（甲子園球場25個分）植えることにしている。地元になじんだ木とはいえ、これは危険ではないかという一抹の不安があった。そこで同時に並行して進めた試験ではベニスナの他にチュウカムレスズメ（中間錦鶏兒）とハクモウムレスズメ（白毛錦鶏兒）を植えることにした。今のところベニスナとそん色なく育っている。この経過が続くのであれば、こうした混植をカウンターパートの指揮部に提案したいと考えている。

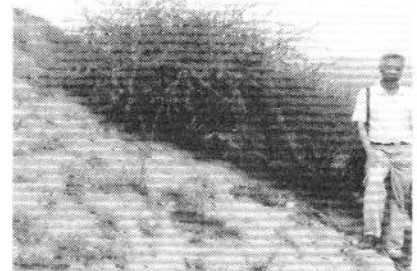
ムレスズメは漢字で樺条（ねいじょう、中国音はニン・ティアオ）や錦鶏兒（きんけいじ、中国音はジン・ジ・ル）と書き、学名はCaragana（カラガナ）という。名前にこだわるとややこしいのはこのシリーズの1回目の会報2号でもお話したとおりである。

## 「ベニスナだけでは不安!!」に答えられるかムレスズメ

KFG顧問 徳岡 正三（元高知大学農学部教授）



ハクモウムレスズメ



2期緑化支援地

ややこしい話をもう少し。会報7号で紹介した「樺条研究」という本では、中国に66種類のムレスズメが分布し、甘粛省にはそのうち25種類があるとされている。しかしの中にはチュウカムレスズメもハクモウムレスズメもない。一方「沙漠植物誌第2巻」（科学出版社、1987年刊）にはハクモウムレスズメが蘭州とその周辺に分布するとある。また現地の技術者によると、特にハクモウムレスズメはタネの採取や育苗に問題があるらしく、これがまとまった面積の植栽の障害になっているらしい。ちなみに「牧野植物図鑑」（北隆館、1961年刊）では、中国から渡来したとしてムレスズメの1種を紹介しているが、そこにある学名は上の2冊には載っていない。つまり東京の小石川植物園にあるというムレスズメがいったい中国のどのムレスズメに相当するのかが分からないのである。中国の北方へ行けばどこでも見かけるムレスズメ類であるが、この低木はまだまだ基礎的な研究が必要とい

うことであろう。

研成社の「プラント」（No. 25、1993年刊）という植物の雑誌をパラパラとめくっていたら宮崎県にツクシムレスズメが分布するとあった。あわてて調べてみると、これは同じマメ科のエンジュの仲間ムレスズメとは違った。これも植物の名前のややこしさの例だが、ツクシムレスズメは分布が限られ、個体数も少なく絶滅の危機に瀕しているという。ムレスズメの仲間ではないが、日本に分布するムレスズメということで、何らか個体数を増やす措置が講じられ、ぜひ生きのびてほしいと願うだけである。

### 六甲山クリーン&グリーン活動

#### 六甲山植樹 - 住吉山手5期植樹 -

- 2009年3月7日(日) 5期植樹
- 3月14日(日) 予備日
- 6月13日(土) 下草刈り
- 9月5日(日) 下草刈り
- 集合 JR住吉駅南側 AM. 9:00
- 服装 長袖、帽子
- 持参品 弁当、水筒、軍手、雨具、タオル

### 六甲山クリーンアップ活動

#### - 身近にできることから始めよう -

- 日時 2009年4月4日(土) 10月10日(土)
- 集合 阪急岡本駅
- 歩行 約4時間30分 約12km
- コース 岡本駅～保久良神社～風吹岩～横池～荒地山(昼食)～芦屋ゲート～芦屋川右岸～芦屋川駅
- 持参品 弁当・水筒・雨具・タオル・ビニール袋・軍手
- リーダー 矢野 正行
- サブリーダー 安本 昭久

参加できる方は  
事務局までお知らせ下さい



## 「森の世話人」認定を受ける 六甲砂防から森再生に貢献

昨年、国交省六甲砂防事務所から「森の世話人」という称号を頂きました。これは植樹や間伐等をボランティアで行い、森を再生させようとしている団体に対して送られるもので、兵庫県内では15団体ほどが認定されています。

KFGの六甲山での植樹活動が認められて頂いたもので、国交省としても出来るだけの支援を行おうとの考えに基づいて、昨年から新たに定めた制度です。資金的な支援は殆ど有りませんが国交省の後押しで緑化を進め、昔は身近にあった雑木林を再生し、CO<sub>2</sub>の削減とやさしい環境造りに役立たせようという活動は、企業や他団体への強いアピールになると思います。

六甲山での植樹活動およびクリーンアップへの皆さんの積極的な参加をお願いします。

## KFG事務局長を引き受けて

矢野 正行

昨年6月、林青彦前事務局長から事務局長という重職を引き継ぎ、早いもので半年が過ぎました。この間、9月21日から9月27日までの蘭州市訪問、その中での四川省大地震の被災地への義援金の贈呈、それに伴う蘭州市外事弁公室および赤十字との会談、さらには蘭州市内企業の訪問、蘭大、農大訪問、ボランティアNPO訪問と忙しいまた有意義な1週間の活動でした。今にして思うと、もう少し前から指揮部の方々と交流を深めていれば良かったと考える場面もありましたが、総合的に見て何とか大役を果たすことが出来たと考えています。

そもそも私がKFGに入会させて頂いた理由の第一は、以前から大変な興味を持っていたシルクロードに実際に行くことができ、自分の目で多くの史跡を見ることができると考えたことです。実際には多くの華僑の皆さんと一緒に行くことができ、ほとんど言葉の不自由を感じなかった事も大きな魅力でした。第二には黄土高原に植樹をすることにより、少しでも地球環境の保全に役立つこ

とが出来ると考えたことです。

確かにシルクロードの主要都市への訪問は、予想していた通り魅力的なもので、史跡の探訪もさることながら、各地の人々の生活ぶりが本当に我々日本とは違い非常に新鮮でした。特に夜の屋台などは活気に満ち溢れており大きなエネルギーを感じました。

しかし、黄土高原の植樹活動については、蘭州市南北両山緑化指揮部との折衝でも体制の違いや国民性の違いから、なかなか阿吽の呼吸では行きません。1期、2期合わせて8年が経過しますが、10年目となる3期については、私自身、もう少し

勉強をして指揮部との折衝に当たる必要があると思います。

国内の活動については現在、六甲山住吉山手での植樹活動を中心に行っていますが、参加者が少なく固定しているのが気がかりで、もう少し多くの会員の呼びかけをする必要があると考えています。

今後の活動については

- 1) 補助金や寄付金の獲得を積極的に行うための体制をつくる。
  - 2) 植樹活動を環境保護の重要な手段と認められるよう各方面にアピールしKFGの存在価値を高める。
- 以上2点を中心に、背伸びせず一歩一歩着実に歩んでいきたいと考えています。ぜひ皆様のご協力をお願いします。

## FM放送で活動紹介

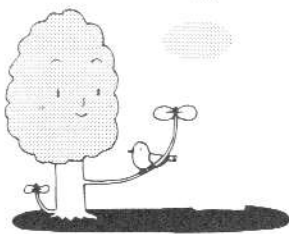
KFGの緑化活動について、FM/COCOROで12月14日と21日の2回にわたってPM. 19:00～19:30で放送されました。

番組名は“NATURE PARK”で三井物産株式会社が提供し、環境活動を行っている団体の紹介です。

放送ではDJ/MEME、リポーター/藤原 了で、第1回目を林青彦前事務局長が、KFGの活動のきっかけ、テーマ、中国と日本での活動内容を話し、第2回目では、矢野現事務局長が活動の苦労話、ビジョン、目標などを話された。

ちなみに、偶然にもDJ/MEMEさんのお母さんもKFGの会員です。

### 事務局からの お知らせをお願い



\*第6回通常総会を下記の通り開催します。

日時：5月30日(土) PM. 13:30～14:30

場所：神戸中華会館7階(トアロード)

なお、終了後、三井物産環境基金助成事業の中間報告と交流会を予定しています。会員さんには、後日ご案内をいたします。

\*今年秋季の植樹ワークツアーは2009年9月19日(土)～26日(土)を予定しています。ふるってご参加下さい。

\*2008年度の会費(2008.4.1～2009.3.31)がまだの方は、よろしくお願い致します。また、寄付をいただける方もよろしくお願い致します。

### 絵本からのエコ・メッセージの畑中弘子さんが 次のような絵本も出版されました。

ある日、弟とけんかしてお母さんに怒られた来未は、おばあちゃんの家への家出を決行する。しかしバスを乗りまちがえてしまい、知らない町へ。

来未はそこで、文字の読み書きができないおばあさんと出会う。このおばあさんは、いったい何者…!?

第二次大戦前に朝鮮から日本へ渡り、戦前戦中の生活苦や阪神・淡路大震災などに遭いながらも、明るくたくましく乗り越えていくおばあさんの物語。



畑中弘子・文  
三枝三七子・絵  
くもん出版

購入は、全国主要書店、ネット(amazon, 楽天ブックス, Tandy, bkl, 紀伊国屋, くもん出版など)にて。